

令和3年度 体育科実践・研究計画

部 員	○伊藤 敏幸, 佐藤 秀恒
-----	---------------

研究テーマ
自他の心身と向き合い、考えながら動きを見いだす子どもを育む学び

1 研究テーマについて

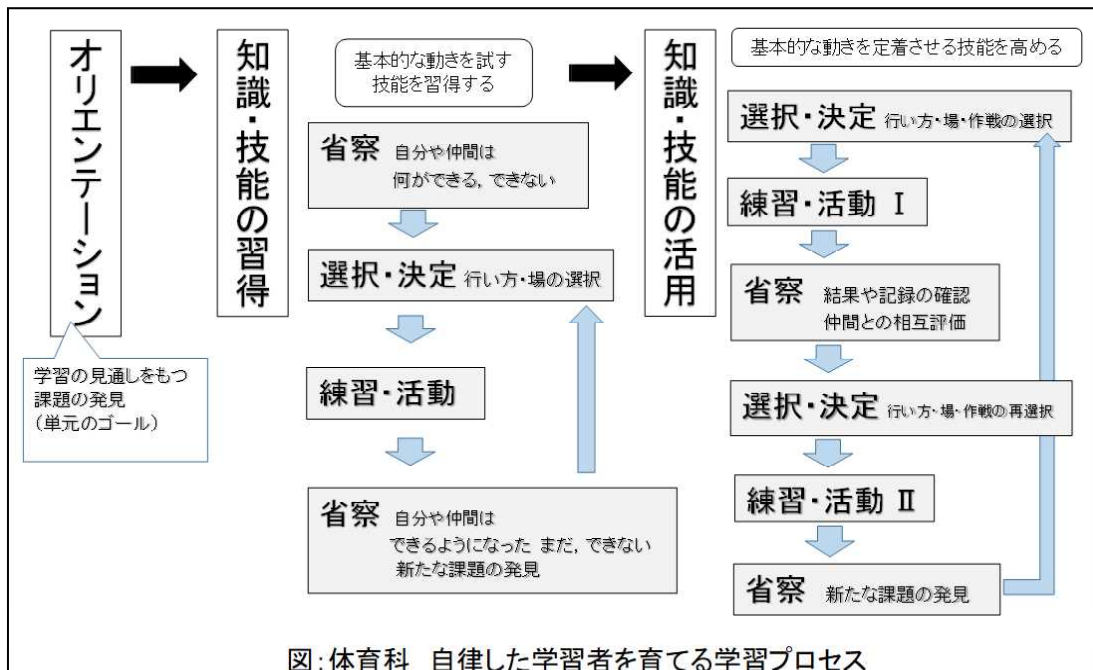
体育科では、体育や保健の「見方・考え方」を働かせ、課題解決する学習過程を通して、心と体を一体として捉え、生涯にわたって心身の健康を保持増進し豊かなスポーツライフを実現するための資質・能力を育成することを目指している。体育の「見方・考え方」である運動の楽しさや喜びとともに体力の向上に果たす役割の視点から捉え、自己の特性等に応じた『する・みる・支える・知る』の多様な関わり方と関連付けることが重要である。

昨年度までの成果の一つ目としては、自己の学びをつなげるために3段階の省察の場の位置付けが挙げられる。導入時は、前時の課題と本時の学習課題を結び付けて本時の「めあて」をもたせるようにした。展開時では、動きのこつを子どもたちの言葉からキーワード化し共有した。自分の課題を解決するために、どんな練習方法や練習の場を選択すればよいかを考えながら活動をを進める姿が見られた。終末時では、自分の課題を友達の動きと照らし合わせながら見たり、解決できなかったことを友達とアドバイスし合ったりする場を設定することで、子どもたちは何を学んだのか、何をすべきなのかを明確にすることができた。

成果の二つ目としては、体育の「見方・考え方」を働かせて、主体的に課題解決に向かうことができる単元構成の工夫が挙げられる。単元の導入時での試しの運動やゲームから、自分の今できることやできないことを自覚する姿が見られた。また、児童のその時の実態に合った課題を提示した。さらに自覚的に体育の「見方・考え方」を繰り返し働かせることができるようにするために、ボール運動ではドリルゲームやタスクゲームを位置付けた。課題を意識した学習活動を効果的に取り入れることにより、動きを意識しながら自ら設定した課題を解決する姿が見られた。

しかし、タスクゲームや作戦、活動の場などの選択肢の提示の仕方については課題が残っている。発達段階に応じて、教師の例示から選ぶ段階、学習の中から自分たちで気付いたものから選ぶ段階、自分たちの学習経験や運動経験を基に自分たちが新たに作り出したものから選ぶ段階、と省察を通してステップアップする必要があるものの、児童が現状を踏まえながら弾力的な選択をする場の保障が課題となる。このことから、今年度もこの研究テーマを継続する。

体育科における「自律した学習者」を、心と体を一体として捉え、自分に合う動き方や健康的な過ごし方を考え試しながら、学びの成果と課題を見だし生涯にわたって運動に親しもうとしたり健康であり続けようとする力を高めていく姿と捉える。また、「学びをつなぐ」を、仲間との協働的な学びを通して、心や体で感じた感覚と体の動きとを往還させながら、課題を捉え直したり、動きの質を高めたりし、動きの精緻化を図ることと捉える。



体育科においては「学びをつなぎ、資質・能力を高めていく子どもの姿」を以下のように捉えている。

- ・自分の心身の現状から課題を見付け、自ら適切に解決しようとする姿
- ・仲間同士で見合った互いの動きやよりよい考えを伝え合う姿
- ・今まきに行われる動きの中に共通点やこつを生かした動きとの相違点を見付け出す姿
- ・これまでに豊かにしてきた体育や保健の「見方・考え方」を意識しながら自覚的に働かせる姿

2 研究の重点 <○は具体的な取り組みの例>

- (1) 動きのこつに着目して、仲間との関わりの中で活用しながら、課題解決に向けて選択・決定する学習を位置付けた単元構成の工夫
- 単元前半の正しく知識・技能を教える場の設定。
 - 活動する場や作戦、タスクゲームなど、選択肢の提示の仕方の工夫
 - 自分の課題を適切に解決するために、
 - ・低学年 教師の例示からの選択・決定
 - ・中学年 タスクゲーム等で気付いたこつの中から、自分やチームに合ったものを選択・決定
 - ・高学年 今までの学習経験や運動経験を基に、自分たちで考えたものから選択・決定
 - 「対話」を通して、こつや作戦を再選択する場の設定。
- (2) 運動を通して身に付けたことを次の課題へつなぐ発達段階のステップを意識した効果的な省察の工夫
- 子どもが活動内容を決定できるように、その課題を解決するために「何をすべきか」を考える活動を行う。
 - 今日身に付いたこつやまだ身に付いていないこつを実感する場の工夫
 - ・低学年 具体的な結果（点数や回数）、友達や教師によるフィードバックからの省察。
 - ・中学年 教師がモデルになったり、仲間の動きを見たりするなど、客観的視点からの省察。
 - ・高学年 こつをキーワードに表して他者に説明したり、この作戦を使って成功した理由を他のグループに教えたりするなどの省察。
 - ・次学年の省察方法へステップアップしていくために、次学年の方法を段階的に取り入れる。
 - 効果的なICTの活用
 - ・導入時に、昨年度のゲームや発表会の様子からゴールのイメージをもたせる。
 - ・展開時に、練習や活動の様子から「できている」「できていない」を確認する。
 - ・終末時に、ゲームや発表会の様子等から、次時の課題を設定する。

3 研究・研修計画

時 期	主な研究・研修行事	研究・研修内容
1 学期	<ul style="list-style-type: none"> ・教科部会 ・市体育研究会の提案授業への研究協力 ・附属中学校公開研究協議会（6/4） ・附属小学校公開研究協議会（6/18） 提案授業（佐藤：3C） 	<ul style="list-style-type: none"> ・実践・研究計画の立案 ・市体育研究会との連携 ・附属中学校との共同実践・研究 ・公開研に向けての指導案検討及び事前研究授業
2 学期	<ul style="list-style-type: none"> ・研究リーフレット執筆 ※部内研修会を兼ねる ・全市一斉授業研究会 	<ul style="list-style-type: none"> ・実践・研究のまとめ ・実践・研究計画の修正 ・市体育研究会との連携 ・大学への研究協力
3 学期	<ul style="list-style-type: none"> ・第3回校内研修会（1/31） 提案授業（伊藤：5B） ・教科部会 	<ul style="list-style-type: none"> ・校内研に向けての指導案検討及び事前研究授業・実践 ・研究のまとめ ・実践・研究計画の立案（案）

通年：年間指導計画及び資質・能力表の加除・修正